

第21回いわき都市圏総合都市交通推進協議会

1 日時 令和8年1月22日(木) 10時30分～11時30分

2 場所 いわき市文化センター 1階 大講義室

3 参加者

No	区分	所属	委員	出欠	備考
1	学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 都市システム工学科 教授	齊藤 充弘	○	○会長
2	一般旅客自動車 運送事業者等	公益社団法人 福島県バス協会 専務理事	宍戸 紳一郎	○	
3		一般社団法人 福島県タクシー協会 いわき支部 支部長	吉田 憲一	○	
4	貨物自動車運送事業者 が組織する団体	公益社団法人 福島県トラック協会 いわき支部 支部長	松尾 活秀	×	
5	一般乗合旅客自動車 運送事業者	新常磐交通株式会社 代表取締役	高野 康央	○	令和8年1月1日より就任
6	高速道路管理者	東日本高速道路株式会社東北支社 いわき管理事務所 副所長	加藤 文啓	○	
7	鉄道事業者	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社 企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	藤澤 充哲	○ (代理)	
8	商工業	いわき商工会議所 議員	山崎 建見	×	
9	公共交通機関 利用者代表	いわき市行政嘱託員連合協議会 副会長	鷲 一雄	○	
10		福島県高等学校PTA連合会いわき地区 会長	杉山 広美	○ (代理)	
11		いわき市社会福祉協議会 副会長	越智 春子	○	
12	一般旅客自動車運送事業者の 事業用自動車の運転者が組織 する団体	常磐交通労働組合 執行委員長 (バス運転手代表)	中丸 一三	○	
13	国	国土交通省東北地方整備局 磐城国道事務所 副所長	佐々木 文克	×	
14		国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所 副所長	伊藤 毅志	×	
15		国土交通省東北運輸局福島運輸支局 首席運輸企画専門官	日脇 渚彩	○	
16	県	福島県いわき地方振興局 次長兼企画商工部長	加藤 宏明	○	
17		福島県いわき建設事務所 主幹兼企画管理部長	佐藤 勇雄	○	
18		福島県小名浜港湾建設事務所 次長	西山 剛	○	
19	公安委員会	福島県いわき中央警察署 交通第一課長	田中 秀幸	×	
20		福島県いわき東警察署 交通課長	大河原 隆司	○	
21		福島県いわき南警察署 交通課長	鎌田 本昭	×	
22	市	いわき市総合政策部 部長	津田 一浩	○ (代理)	
23		いわき市観光文化スポーツ部 部長	深谷 健司	○	
24		いわき市土木部 部長	市毛 芳幸	○	
25		いわき市都市建設部 部長	紺野 克彦	○	○副会長

アドバイザー

1	学識経験者	独立行政法人国立高等専門学校機構 福島工業高等専門学校 特命教授	芥川 一則	×	
2	学識経験者	福島大学 経済経営学類 教授	吉田 樹	○	

4 配布資料

次第

席次

委員名簿

議案書

資料1：会議資料

資料2：地域内フィーダー系統について

(報告事項) 路線バスのダイヤ改正について

参考資料

5 概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) 協議事項

① 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る令和7事業年度の事業評価について

(4) 報告事項

① 第二回バス無料デーの実施について

② 路線バスのダイヤ改正について

(5) その他

(6) 閉会

6 議事内容

(3) 協議事項

① 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る令和7事業年度の事業評価について

○会長

- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る令和7事業年度の事業評価について、委員の皆様からご質問やご意見を頂きたい。

○アドバイザー 福島大学 吉田教授

- ・30分間隔で運行している基幹路線の平～いわき NT・小名浜の利用者が増えていることは非常に良いこと。路線の愛称や基幹路線であることをマークづけるなどして利便性が高いことを一目でわかるようにすることが重要であると考えます。
- ・事業評価の今後の改善点に記載されている、「周囲の路線も含めた全体的な導線と構築していく」というところが分かりにくいのでもう一度説明していただきたい。

○事務局

- ・平～内郷～湯本、小名浜～泉の基幹路線で目標が達成できなかった要因として、これらに繋がる路線のダイヤ改正や減便が挙げられる。そういった意味で、基幹バス路線に繋がる路線のルートやダイヤなどを改めて確認していく必要があるという趣旨である。

○アドバイザー 福島大学 吉田教授

- ・今、説明していただいた言葉のほうの方が分かりやすく伝わるのではないかと思います。また、目標が達成できなかった路線も途中で高校や医療センター、大型商業施設があるため、これらの主要な目的地の停留所で乗車人数がどのように変化しているのか確認していくことも効果的であると考えます。

○委員 福島運輸支局

- ・県内の乗合事業の令和元年度から令和5年度のデータを比較すると走行距離、輸送人員、営業収入の全てにおいて20%前後下がっている状況であり、乗合事業の厳しい現状がデータで現れている。一方で福島県は、地域間幹線系統補助の系統数や金額は他の東北6県と比べて令和元年度から令和5年度までのどの年度でも一番多い数値となっており、厳しい中でも、補助金を活用しながら路線を維持しているという状況である。いわき市は地域間幹線系統補助が使いにくいなかで、フィーダー補助を活用していくことは非常に重要なことであるため、引き続きフィーダー補助を活用し公共交通の維持・促進に繋げていってほしい。

○会長

- ・議案第1号「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る令和7事業年度の事業評価について」について、承認することに異議はないか。

→異議なし

(4) 報告事項

① 第二回バス無料デーの実施について

○アドバイザー 福島大学 吉田教授

- ・昨年度の県で行ったバス無料デーの集計を研究室でお手伝いしたが、県内で一番利用が増えたのが「いわき駅～イオンモール」その次が「泉駅～イオンモール」という結果だった。ここで重要なのが、駅が起点となっているというところで、もっと自宅の近くにバス停がある人が不安なのでわざわざ駅まで来てバスに乗車している。無料でバスに乗れるので、駅まで来てバスに乗車してイオンモールまで行くという普段と違う特別な行為をしているため、なかなか日常使いの促進に繋がらない。家の近くから乗れるということを知ってもらうということが重要であるため、グーグルマップで乗換情報やバスがどこにいるかまで確認できることをバス無料デーの広報をする際に、併せて情報提供するとより効果的になると思う。

○事務局

- ・グーグルマップの活用に加えて「JOKOバスくる」というバスロケーションシステムもあるのでそちらのPRと、実際の使い方も併せてPRできないか検討していきたい。

② 路線バスのダイヤ改正について

○会長

- ・路線バスのダイヤ改正について、ご質問などがあればお願いしたい。

○アドバイザー 福島大学 吉田教授

- ・全国的に運転手不足に伴うバスの減便・廃線が深刻な中で、今回の改正は、特定日にしか運行しないものや学生のみが利用し代替の方法で通学が可能であるイレギュラーな系統を中心としたダイヤ改正で、やむを得ないものと認識している。一方で、ここまで学校に丁寧な説明を行っていることに驚いており、逆に学校側にもっと当事者意識を持ってもらいたいと思う。学校からの要望で時刻などを変更しても、乗ってもらえなければ路線の維持は非常に厳しい状況になってしまう。そこで、学校側にも生徒や保護者に対し、ぜひバスを使ってほしいと協力を仰ぐようアナウンスしていただきたいため、本日参加の皆様にも周知にご協力していただきたい。

○会長

- ・新常磐交通においては、利用している学生等から理解が得られるような説明を引き続きお願いします。

(5) その他

○事務局

- ・次回の協議会について、本日の報告事項「路線バスのダイヤ改正」に伴う路線廃止について、2月中に協議していただきたいと考えている。開催方法など詳細が決まり次第改めて事務局より連絡させていただく。

以上